

花齊園暮新聞

### 第33回花卉懇談会セミナー「植物を活用した環境対策を探る—快適な暮らしを創出する植物の活用—」

期待したい」といった趣旨のあいさつがあった。講演は、▽住まいと街

を彩る花との設計手法、建築と草花の融合を考える 積水ハウス(株)東京シヤーランド住宅支店設計

●榎本恵一氏

# 快適な暮らし 植物活用



## 花卉懇談会セミナーでパネル討論会

用法」が7月29日、東京農業大学世田谷キャンパス1号館141教室で開催され、居住環境に多くの植物の選択と植栽方法、生産側から見た新商品の提案などを踏まえ、快適な暮らしに向けて植物の活用法について検証した。

日々扱っている植物が  
地球環境を浄化する唯一  
の手段であり、植物なく  
して地球環境保全はなし  
得ない。われわれはその  
ことを理解し、世の中に  
周知していく責があると  
思います。地球温暖化を  
食い止めるための展開を

談会会長（株常磐植物化  
学研究所 資源開発部  
長）から「地球温暖化の  
影響は、大気循環異変に  
伴う干ばつの拡大や、ゲ  
リラ豪雨に象徴される局  
所的な豪雨、台風や低氣  
圧の大型化など多々あり  
ます。われわれ植物に携  
わる者が何ができるか？  
日々扱っている植物が

期待したい」といった趣旨のあいさつがあった。講演は、▽住まいと街

を彩る花との設計手法、建築と草花の融合を考える 積水ハウス(株)東京シヤーランド住宅支店設計

卷之三

# 選択や植栽方法を紹介

いせんたらないと思ふ  
特徴を項目別(サイズ、  
地上部特性、葉と花の形  
態、生育環境)に分類し、  
生産者、販売者と設計者  
の共通記号にしておき、  
知識、意識のギャップの  
穴里ゆゑに兵用語が必

直されていく経緯「街並み、みどりのアナログ的な作り方」を紹介。また1棟の計画より2棟、3棟とn棟集まればn倍豊かな居住環境を創造できる。つなぎのデザイン

③利用のつながりーと事例説明。

彩。季節によつて變化する。

織細な緑を感じ確かなる。幸せとなっていた日本人。ストレスも緩和する。急速になくなっているものを取り戻したい。同じ消費するなら体にいいもの、環境にいいものを選ぶ。技術だけではなく世の中の求めに応じてや

●村岡佑基氏

A black and white circular portrait of a man wearing glasses and a suit, speaking into a microphone.

村岡佑基氏  
村岡氏は一花数か多く生育旺盛で大きく育つ、がコンセプト。花は嗜好品。どんな花が買いたいか、お客様目線と五感の一つでも多くに働きかけます。尚ほミニマリズム

花數多

六

生育旺盛で大きく

木岡氏は「在庫が多く、生育旺盛で大きく育つ、がコンセプト。花は嗜好品。どんな花が買いたいか、お客様目線と五感の一つでも多くに働きかけ

鳥取県北栄町で平成12年設立（昭和63年創業）。オリジナル品種の育種、生産、企画販売と一般品種の生産、企画、販売をする花苗事業と生産農家用野菜苗生産販売事業がある。オリジナルにはJFS2010-11フーラー・オブ・ザ・イヤーを受賞したペチュニア「マドンナの宝石 ピンク」、JFS入賞の「ソフィア」の宝石バイオレット、ホワイトピンク」があり、期待の生産者の一人。

企業の姿勢取組  
パラに向けての花き産地間連携協議会へ積極的に参加し植栽へ積極的な提案も行っている。商品を認知してもらうため展示会へも積極的に参加し、商品を説明して扱い方、良さを分かってもらう営業も行っている。営業していくことが大事だと思う」と話した。